



◀今はない国鉄鍛冶屋線中村町駅 中町の中心駅として多くの人が利用した駅舎の姿。大正12年、私鉄の播州鉄道鍛冶屋線の駅として開業し、戦時中に国鉄へと転換、戦後も旅客や物資の輸送に活躍したが、平成2年に廃線となった。現在、中村町駅の跡地は整備され公園となり、地域住民の憩いの場となっている。〈多可町・昭和48年〉

特色  
**3**

わかりやすい解説や  
身近な話題が満載！



▶かつての社交差点 佐保神社の脇から西、社交差点を望む。なだらかな丘陵地を一本道が西に向かって伸び、写真奥で北播磨の大動脈・国道175号と接続する。かつてはこのような田園地帯が広がっており、はるか遠くまで見通せたこの地域も、現在では住宅や商業施設が建て込んでおり、風景は一変した。〈加東市・昭和43年〉

特色  
**4**

ご家族、ご近所、ご友人  
みなさまで楽しめる！



◀三木大宮八幡宮例大祭の屋台太鼓 播州の三大八幡宮のひとつと称される三木市の大宮八幡宮。秋の例大祭の見せ場、各地区代表の8基の屋台太鼓が、急勾配の85段の石段を一気に駆け上がる姿である。男たちの熱気に、大勢の見物客も息を飲む。〈三木市・昭和20～30年代〉

▶加西市制施行を祝う自動車パレード 昭和42年、加西郡に属する北条町、泉町、加西町の三町が合併し、新しく加西市が誕生した。市制施行の祝賀パレードを捉えた一枚で、華やかな飾りつけのオープンカーが、まだ砂利道だった北条町の中心地をゆっくりと進むところ。左奥に少しだけ写るレンガ造の建物は、美しい洋風建築だった神戸銀行北条支店である。〈加西市・昭和42年〉

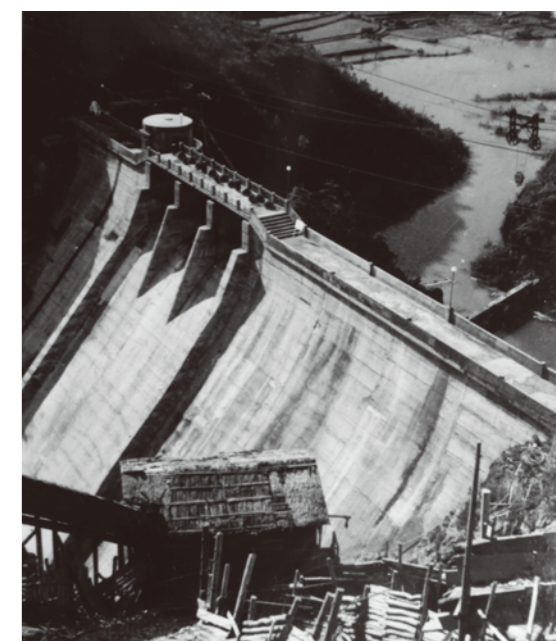


特色  
**1**

懐かしいオリジナル写真  
約600点を厳選収録！



▲加美町にやってきた栄養指導車 米飯中心で栄養が偏っていた家庭の食事の改善が叫ばれるようになった昭和30年代、後部をキッチンに改造した栄養指導車（キッチンカー）が全国各地を巡回し、台所に立つお母さんに小麦粉や乳製品を使った欧米型の献立を伝授した。小学校の給食と並び、その後の日本人の食の嗜好に大きな影響を与えたといわれる。〈多可町・昭和39年〉



▲鴨川ダム建設 水不足に悩むこの地域にダムを建設する計画は戦前からあったが戦争のため中断、戦後の食糧難を解決するため、GHQの視察を経て国家事業として昭和26年に完成した。ダム湖は「東条湖」と名付けられ、播磨地方有数の観光地となっている。〈加東市・昭和20年代〉



特色  
**2**

胸が熱くなる思い出の  
情景がよみがえる！

◀「敬老の日」発祥の地・八千代 「敬老の日」は、昭和22年、当時の野間谷村（現多可町八千代区）の村長らが提唱した「としよりの日」が始まりとされる。その後、9月15日に敬老会を行う習慣が兵庫県内や全国に広まり、同41年には祝日法の改正により正式に国民の祝日となった。〈多可町・昭和45年〉